
クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ
第3回セメントタスクフォース会議（インド、デリー市）
議長によるサマリー

I. 緒言

APPセメントタスクフォースの喜多見淳一議長によって、アジア太平洋パートナーシップ第3回セメントタスクフォース会議が開会された。会議は、4月18日から19日、インドのニューデリー市タジパレスホテル（Taj Palace Hotel）で開催された。会議には、パートナーシップ諸国である6カ国全てから45人以上の参加者があった。

本セッション前の開会式において、インド工業省、産業政策・振興局長のAjay Dua 博士がホスト国インドを代表し、APP参加者へ歓迎スピーチを送った。

議長が、中国の西安で開かれた前回のタスクフォース会議以降の出来事と進展を振り返り、第3回会議の主な目標を定めた。

II. 協議事項の採択

事前にメンバーに配布された協議事項案とその注釈の討議が行われ、タスクフォースのメンバーは、第3回会議の協議事項を提案通り採択した。

III. セメントタスクフォース・アクションプランの活動に関する報告と討議

セメントタスクフォース・アクションプランは履行段階に達しているため、アクションプラン書に示された各プロジェクトのマネージングパートナーが、それぞれのプロジェクトの進行状況とこれまでの課程、および今後のスケジュールを報告した。

傑出した結果と進展のあった継続中プロジェクトに関しては、詳細な討議が行われた。その内容は、下記にプロジェクトコードの順に示されている。

CMT-06-01：現状報告

初期調査の結果および当該プロジェクトに関連した今後の作業プランが、日本から示された。タスクフォースは、CSI CO₂プロトコルに従ったデータ収集のワークフローに同意し、また、今後特定の国のデータを公にする前には当該国に助言を求めることで合意した。

CMT-06-02：ベンチマーキング（ベンチマーク開発）

討議の結果、CSIベースのCO₂原単位を主な成果指標として使用すること、また各国の全国平均に基づいたエネルギー原単位を追加的あるいは任意で使用することで、全体の合意が得られた。これは、最良成果（best performance）ではなく最良慣習（best practice）の普及率を反映させるためである。小作業グループ（パートナー6人で構成）が組織され、主会議の合間を縫って直ちに開かれた話し合いで残りの課題について詳細が話し合われた。この作業グループでの決定事項は以下の3点である。(1) CSI CO₂プロトコルを国のベンチマークとして使用したセメントによるCO₂原単位指標（ネット）（義務）、および、クリンカーのエネルギー原単位指標（ネット）あるいはクリンカーの単位あたりネット熱エネルギー量と電力を別に示した指標（任意）を組み合わせ、承認された成果指標として使用すること。(2) 各パートナーは、国のベンチマークをもとにした2015年の排出量を2005年排出量と比較して10%削減する可能性を設定することで合意する。(3) 各パートナーは、次のタスクフォース会議までに、その他の課題について可能性と障害を特定し、10年での削減率（%）の実行可能性およびその達成への障害を日本および米国に報告する。上記の共通認識に対し、インドは10%の削減目標は現状では同意できず、次のタスクフォース会議以降も討議を続けるべきであると強く訴えた。タスクフォースは、作業グループでこの提案を継続して検討することで同意した。

CMT-06-03：法／規制問題

管理パートナーである米国は、好ましい技術や活動の普及を妨げている障害や阻害の問題、および、本年末までに勧告に組み入れることとなっているパートナー諸国から募集した意見を取り入れるよう、当プロジェクトを改定・拡大する提案を口頭で報告した。議長は、同意された予定によれば、勧告が作成される前に「白書」（White Paper）が発行される予定であることを米国に対し指摘した。

CMT-06-04：製品の応用

米国はライフサイクル評価の概念について報告し、タスクフォースはパートナー諸国の意見に基づき継続して取り組むことで同意した。管理パートナーである米国は、米国が共同議長を務める建物および電気機器タスクフォースに共同作業の可能性を問い合わせることとなった。

CMT-06-05：技術普及センター

タスクフォースは、管理パートナーのもとで、当プロジェクトをさらに検討し、オーストラ

リア、中国、インドおよび米国からなる関連運営グループを早急に設立して、タスクフォースとの連絡や問題点の釈明にあたることで同意した。タスクフォースは、同プロジェクトフックシップガイドラインに矛盾しないという見解を確認、同意した。

CMT-06-06：セメントキルンコジェネレーション

オーストラリアは、当プロジェクトは策定された予定通りに進展していると現状を報告した。議長は、次の会議では、具体的な計画に基づいた確実な進展の報告を期待すると述べた。

当協議事項中の多くのセッションを閉会するにあたり、議長は、継続プロジェクト（特に短期プロジェクトと定義されており、本年末までに完了することとなっている最初の3つのプロジェクト）に関し、策定された予定を達成するよう尽力することをタスクフォースに求めた。

中国が、中国のセメント産業と、そのCO₂排出とエネルギー消費を削減する取組みを紹介する啓発的なプレゼンテーションを行った。

IV. 具体的な問題に関する協議

タスクフォースは、進展にグループの同意を必要とする複数の新プロジェクトの提案について、セメントタスクフォースのアクションプランに加えるべきかどうか、意見交換を行った。

第2回会議で初めて示された2つのプロジェクトの概要をインドが述べた後、オーストラリア、米国、韓国が、それぞれの提案するプロジェクトを紹介した。詳細な協議の後、以下の案件が新プロジェクト候補として特定され、発案パートナー国およびサポートパートナー（あるいはスポンサー）国（かっこ内に記載。先頭がリーダー国）によってさらに開発作業が進められることになった。

- ・プロジェクト7番：有害廃棄物活用サブプロジェクト4件の統括プロジェクト
 - (1) 有害廃棄物の活用（インド、オーストラリア、米国）
 - (2) セメントキルンでの有害溶剤性燃料の処理（オーストラリア、中国、インド）
 - (3) セメントキルンでの有害バイオ固形燃料の活用（オーストラリア、中国、インド）
 - (4) 技術援助と情報交換活動（仮称）（米国、中国、インド）

- ・プロジェクト8番：バイオマス廃棄物の活用サブプロジェクト2件の統括プロジェクト

- (1) 藻類バイオリアクターを用いたCO₂リサイクリング（インド、米国）
- (2) バイオマス活用における実現可能性分析と国際シンポジウム（仮称）（米国、インド）

・プロジェクト9番：セメントコンクリートのCO₂吸収効果に関するプロジェクト（韓国、オーストラリア、インド、米国）

タスクフォースは、資金問題を十分に考慮して上記のプロジェクトの内容、対象範囲、管理を再定義し、プロジェクトの可能性を承認取得に向けPICに提出できる候補のレベルにまで引き上げるよう、当該パートナーが継続的に努力することで同意した。これに関連し、米国は、言語表現と文書の確認を行うことを申し出た。

日本は、短いプレゼンテーションの中で、専門家や技能者が工場を訪問し、改善の助言を行う計画を示した。中国とインドはこの計画の支持とその実行への強い希望を示した。日本は、次のタスクフォース会議までにこのプログラムを新たなプロジェクトとして提案できるよう準備する予定である。

タスクフォースのメンバーは、他のタスクフォースの現状、および当タスクフォースとの協力の可能性について報告を受けた。この中には、アルミニウムタスクフォースとの残留ボーキサイトプロジェクト、鉄鋼タスクフォースとのPCB廃棄プロジェクトがあり、インドのセメントタスクフォースメンバーは興味を示した。両プロジェクトに対し、インドのセメントタスクフォースのメンバーは、インドのアルミニウムタスクフォースおよび鉄鋼タスクフォースのメンバーと連絡を取ることに同意した。

V. 関連国際活動

事務局より、国際エネルギー機関（International Energy Agency: IEA）によるエネルギー効率と性能を評価し、産業界における最良事例を特定するための取組みが報告された。これは、2005年のG8グレンイーグルスサミットで義務化されたものである。

日本のメンバーから、持続可能な開発のための世界経済人会議（World Business Council for Sustainable Development: WBCSD）のセメント産業部会（Cement sustainability Initiative: CSI）に関連した最近活動の報告があった。これには、CSIによるCO₂排出量とエネルギー消費量の現場でのデータ収集やCSIとAPPのセメントタスクフォースの連携の可能性などが含まれ

ていた。

これに関し議長は、アクションプランの活動を行う際には最近の傾向を考慮して行うよう、タスクフォースのメンバーに告げた。

VI. 次のステップと結論

APP ASGの事務局からタスクフォースメンバーに対し、パートナーシップ検証および関連ガイドラインとAPP手順への補足事項を示した2つの文書が渡された。この文書は韓国で開かれた前回のPIC会議での同意にもとづくもので、簡単な背景説明と文書の意味の説明があった。

オーストラリアが、次の会議を今年の9月12日から13日にオーストラリアのメルボルンで主催する提案をし、タスクフォースはこれを承認した。米国が2008年3月に開かれるその次の会議を主催することを申し出た（日程と場所の詳細は後に発表）。

議長が、主催国インドおよび全参加者に謝意を示し、閉会した。